

モーセ

聖徒たちと歩む聖書 ~31~
モーセ その5

「荒野を導く 救い主」

出16~18章 天からのマナ・岩からの水

【教会のアフターコロナを考える!!】

■テレワークであぶりだされる、本当の仕事ぶり!!

➡教会でも、同じようなことが!!

■これが2年も続いたら？

義理で出席している信徒ばかりの教会は？

➡信徒一人一人に求められる、自発性。積極性。

■説教者にとっては試練？ チャンス？

➡世界中がライバルに!! 勝者総取りがネット世界!!



【教会のアフターコロナを考える!!】

■この2年を見据えた、伝道に取り組もう!!

➡ライブ配信、ビデオ会議。ネットをフル活用!!

☆賛美や証、動画を送ってくれるこどもたち!!

➡会堂のスタジオ化促進!! 伝道は、先行投資!!

■顔を合わせたの交わりに勝るものはない!!

状況を見ながら、少数の集いを持とう!!

■画面越しでも、伝えられることとは？

➡求められる本質。御言葉を直球で伝えるとき、
主が、欠けを補い、助けてくださる。



【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 苦い水 天のパン

15:22～16章

II. 岩からの水 初めての戦い

17章

III. 舅エトロのアドバイス 18章

IV. まとめと適用

命のパンを食べよう

危機の時代を乗り切るために

シナイ山までの道のりは、
律法生活への備え。

律法生活・予習編

荒野生活のプレ編でも...
民の問題の根も明らかに

イスラエルの歩みは
すべて アブラハムへの
神の約束から始まった

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

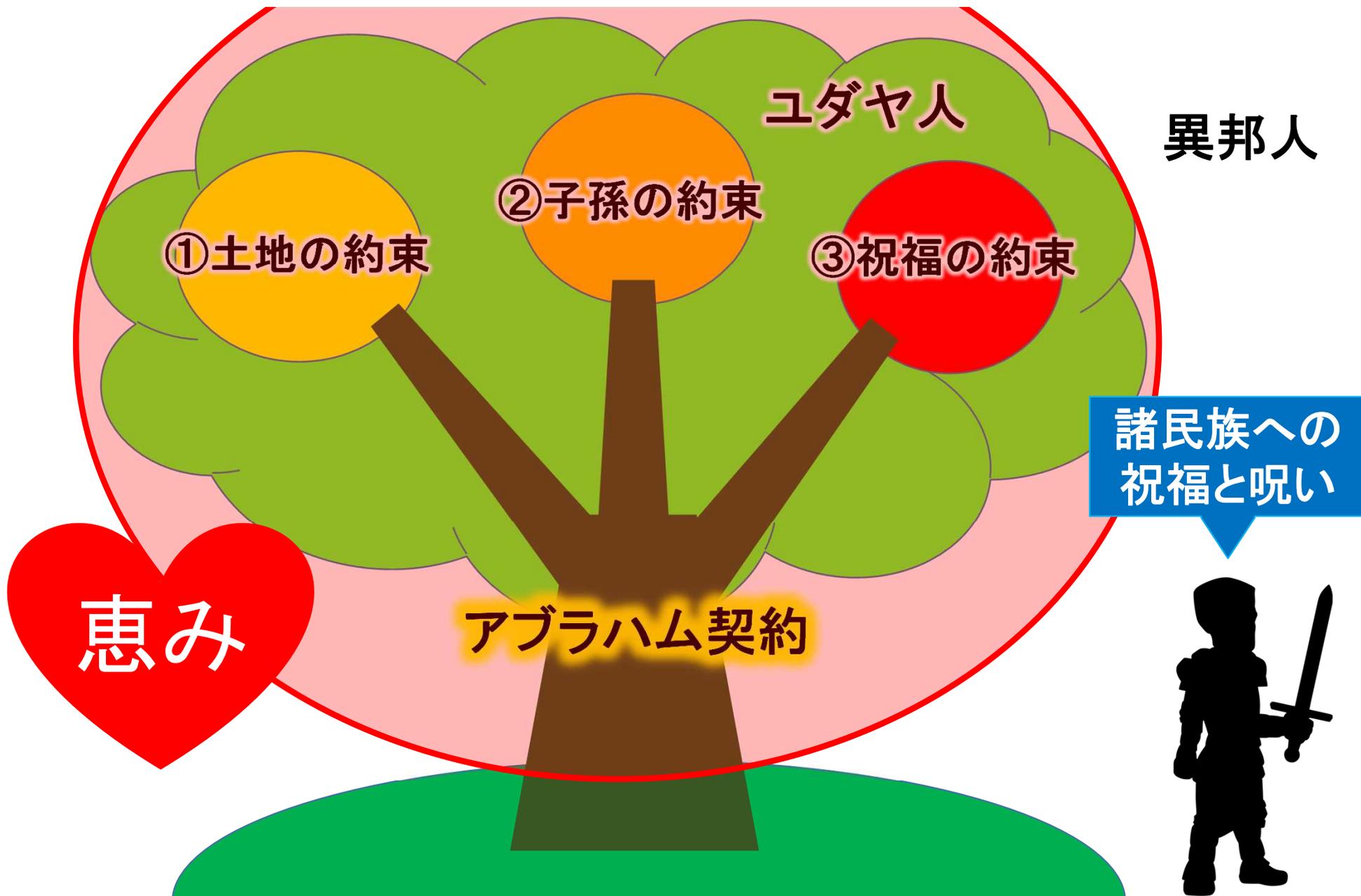
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】



【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

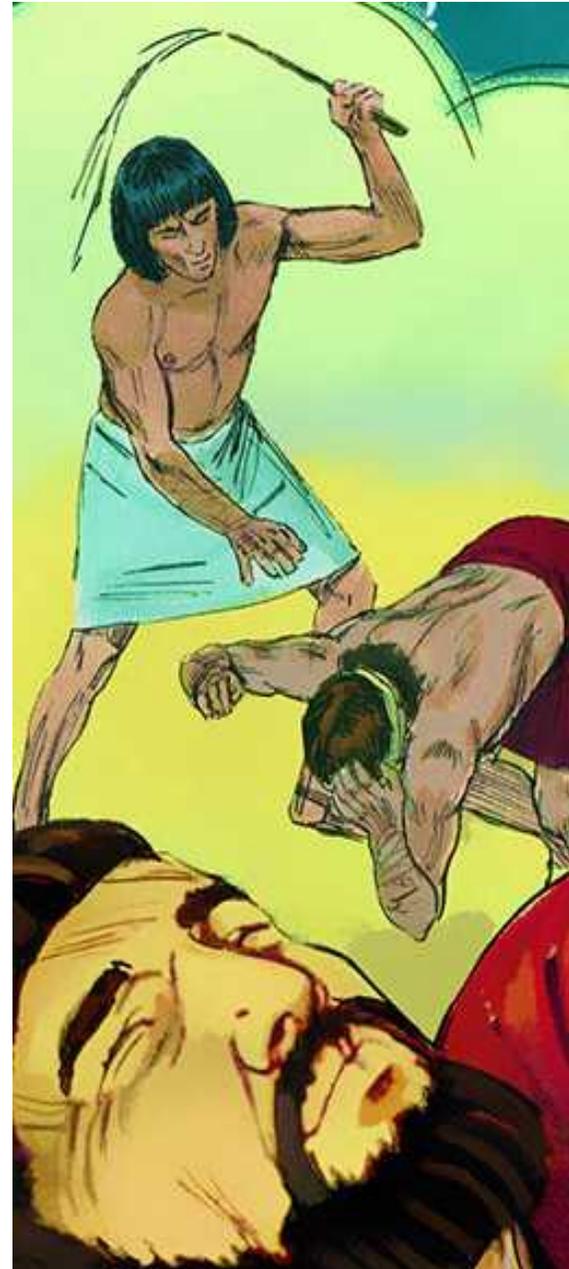
「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

■ アブラハムへの約束通り、

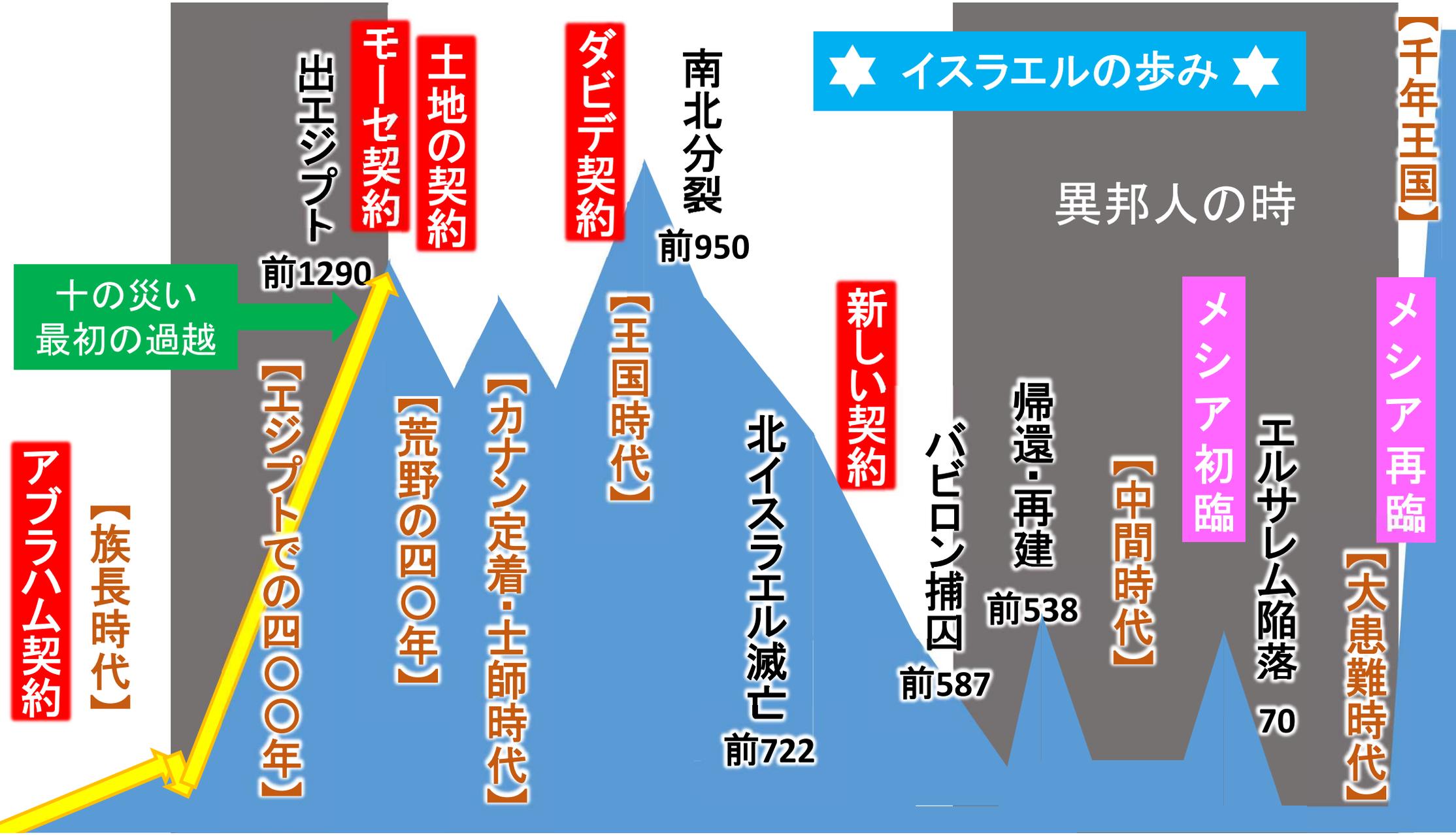
150年後、大飢饉を逃れて、一族はエジプトへ。

■ 400年で一大民族に成長したイスラエルは、

多くの財をもって、エジプトを脱出することに!!



★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

十の災い
最初の過越

【族長時代】
アブラハム契約

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。
- 40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。
- 80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。
- パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。
- イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
葦の海を渡り、いよいよ約束の地へ!!



0~40歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に 40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

40~80歳

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

80~120年

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【シナイ半島とは？】

■ エジプトとイスラエルの間にある
三角形の半島。大半は荒野。

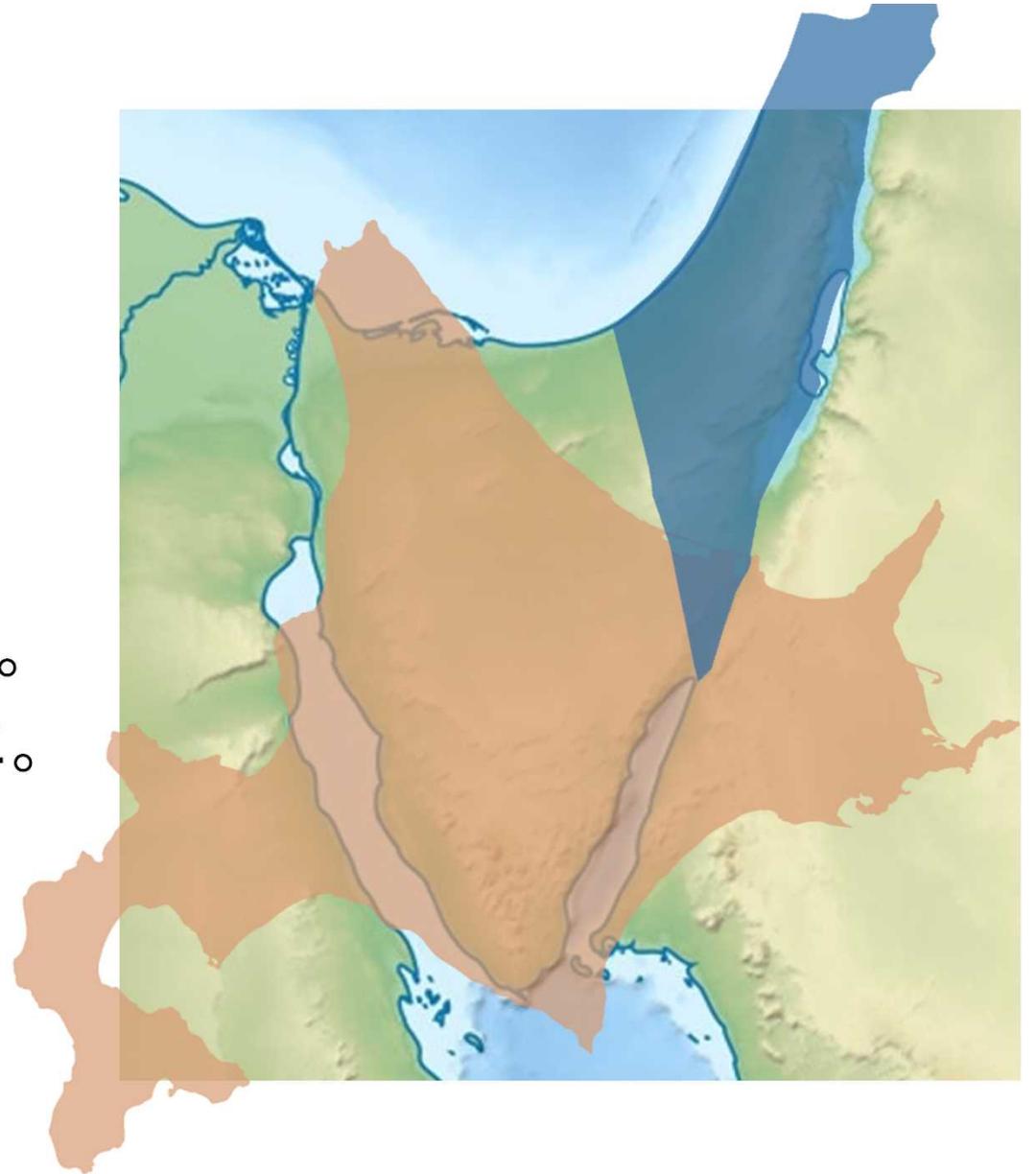
■ アフリカとアジアをつなぐ要衝地

■ 40年間、モーセが羊飼いをした地。
イスラエルは40年、さまようことに。

■ 面積は、約6万km²。

➡ 北海道の3/4くらいの広さ。

＝東北 ＝関東＋東海



I. 苦い水 天のパン

出エジプト記15章22節～16章



【民のつぶやき】 出15:22

■ 葦の海を渡った奇跡から、わずか3日後。

たどり着いたマラの水は、苦くて飲めなかった。

■ モーセが主に叫ぶと、主が、水を甘く変えられた。

イスラエルは、主の導きの原則を教えられた。

「もし、あなたがあなたの神、【主】の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは【主】、あなたをいやす者である。」

■ 次の到着地エリムには、12の泉と70本の椰子が。

➡12は、イスラエル。70は、全民族を象徴(創10章他)



律法時代の原則は、
祝福と呪い(予習!!)



主の恵みは
全地に及ぶ!!



【民のつぶやき・神の恵みの応答】 出16:1～4

■ エリムから、シンの荒野へ。さらに高まる民の不満!!
「エジプトの地で、肉なべのそばにすわり、パンを満ち足りるまで食べていたときに、私たちは【主】の手にかかって死んでいたらよかったのに。」

➡ エジプトでは、400年も奴隷だったのに？

明らかな事実の歪曲。つぶやきにもほどがある!

■ しかし主は、主のつぶやきに、恵みで応えられた!!
出16:4～5「見よ。わたしはあなたがたのために、パンが天から降るようになる。民は外に出て、毎日、一日分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを、試みるためである。」



【荒野の訓練における主の目的】 出16:4

- モーセへのつぶやきは、主に対するつぶやき
- 昼は雲の柱、夜は火の柱。主の栄光に導かれながら、それでも、つぶやきの絶えない民に、モーセは、主ご自身と対峙するよう促した。
- アロンが告げ知らせ、民が荒野を振り向くと、主の栄光が雲の中に現れ、モーセに告げた。「わたしはイスラエル人のつぶやきを聞いた。彼らに告げて言え。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りるであろう。あなたがたはわたしがあなたがたの神、【主】であることを知るようになる。』」



荒野のテーマは、
主を体験的に知ること

【天からのパン・マナ】 出 16:13～

■ 夕方、うずらが飛んできて、朝には、露が。

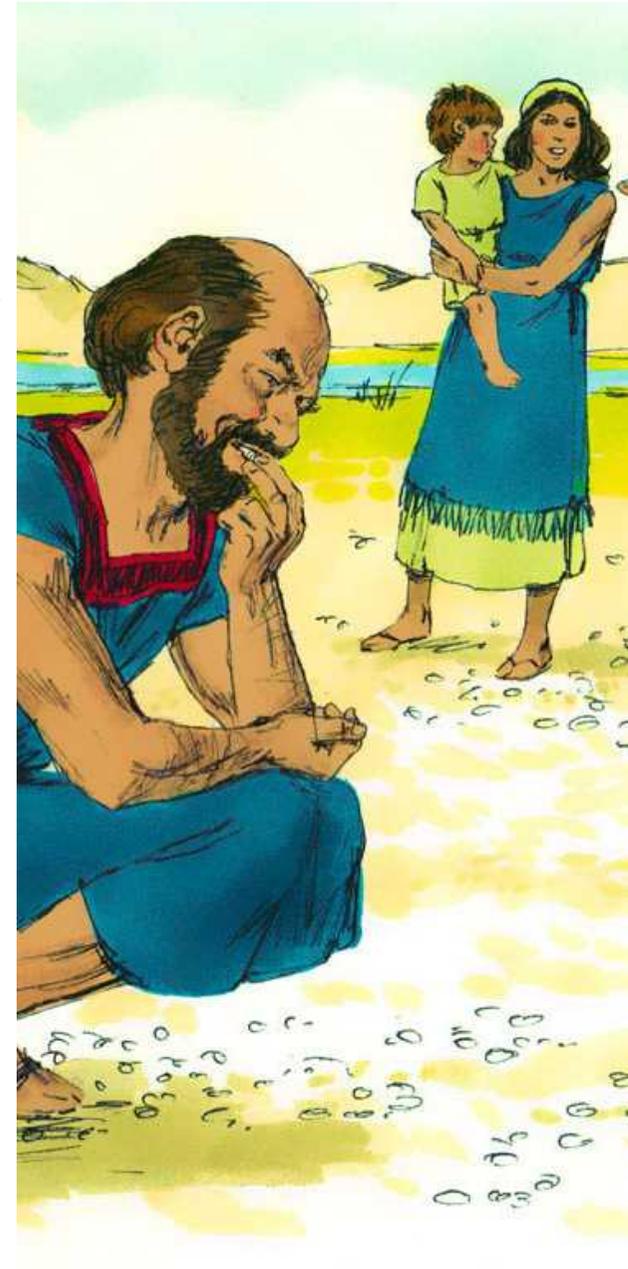
16:14 その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うろこのような細かいものがあった。16:15 イスラエル人はこれを見て、「これは何だろう」と互いに言った。

■ 「それで人々は御使いのパンを食べた。詩78:25」

■ マナは、天のパン。天の食糧。

➡ 以降、40年間、約束の地に足を踏み入れるまで、一日も絶えることなく、イスラエルを養い続ける。

人生の荒野で、私たちを生かすのは、命のパン



【マナに関する主のルール】 出 16:16～34

①朝まで残しておいてはならない。

➡その日に食べる分だけ。1オメル(2.3ℓ)

➡日が熱くなると溶けてしまう。

➡残したものには、虫がわき、悪臭が!!

②6日目には、二日分を集める。

③7日目は休む。

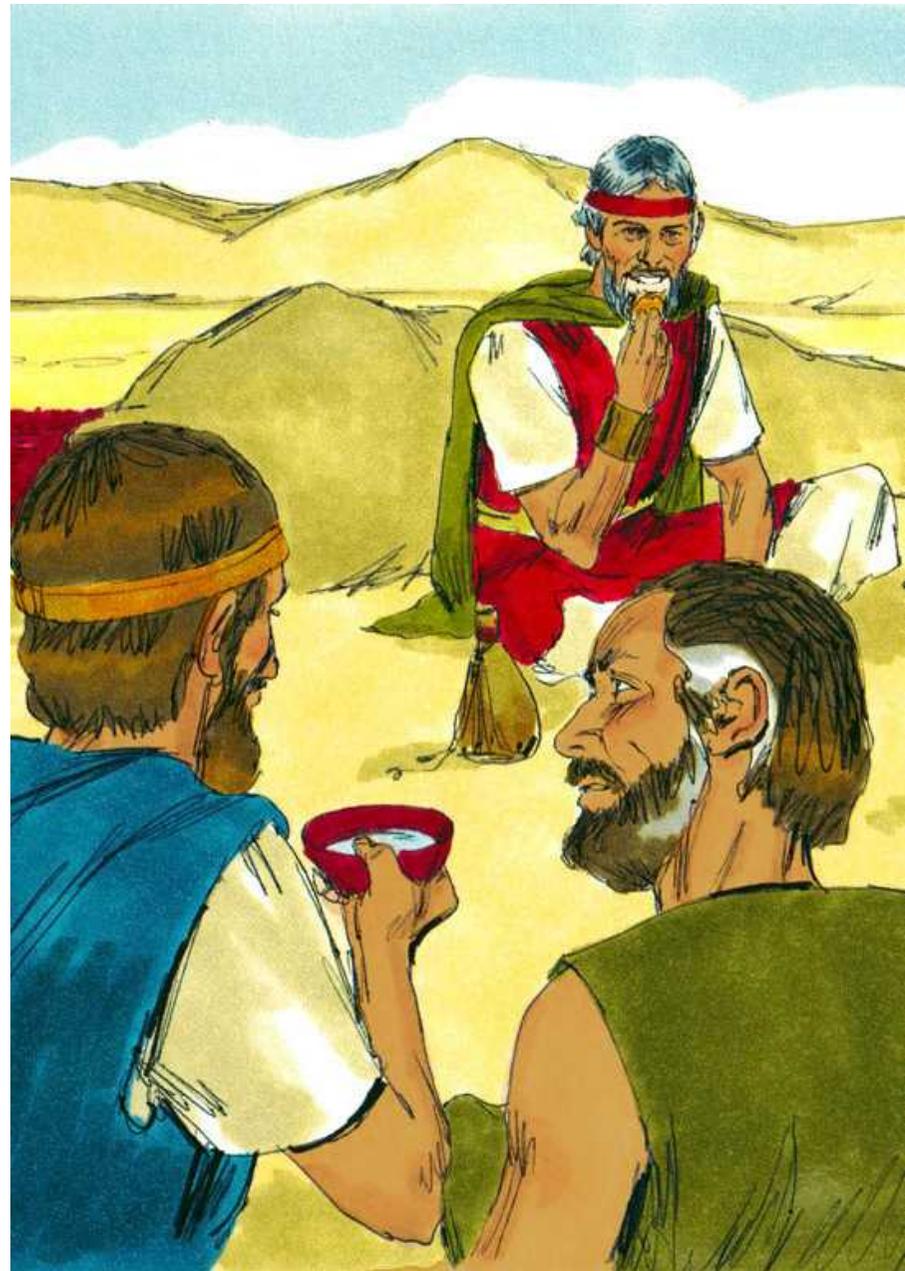
16:23『あすは全き休みの日、

【主】の聖なる安息である。』

➡後に律法で定められる、安息日の予習。

安息日が、イスラエルを他と区別する、

「シナイ契約のしるし」となる!!



【マナの特徴】 出 16:31

16:23焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。

16:31それはコエンドロ*の種のように、白く、その味は蜜を入れたせんべい*のようであった。

■ そのままでも、煮ても焼いても美味!!

* コエンドロ ...コリアンダー。パクチー。

セリ科の一年草。

実はスパイスに。甘くはない!!

フムスにも必需品!!

* ウエハース(共同訳)



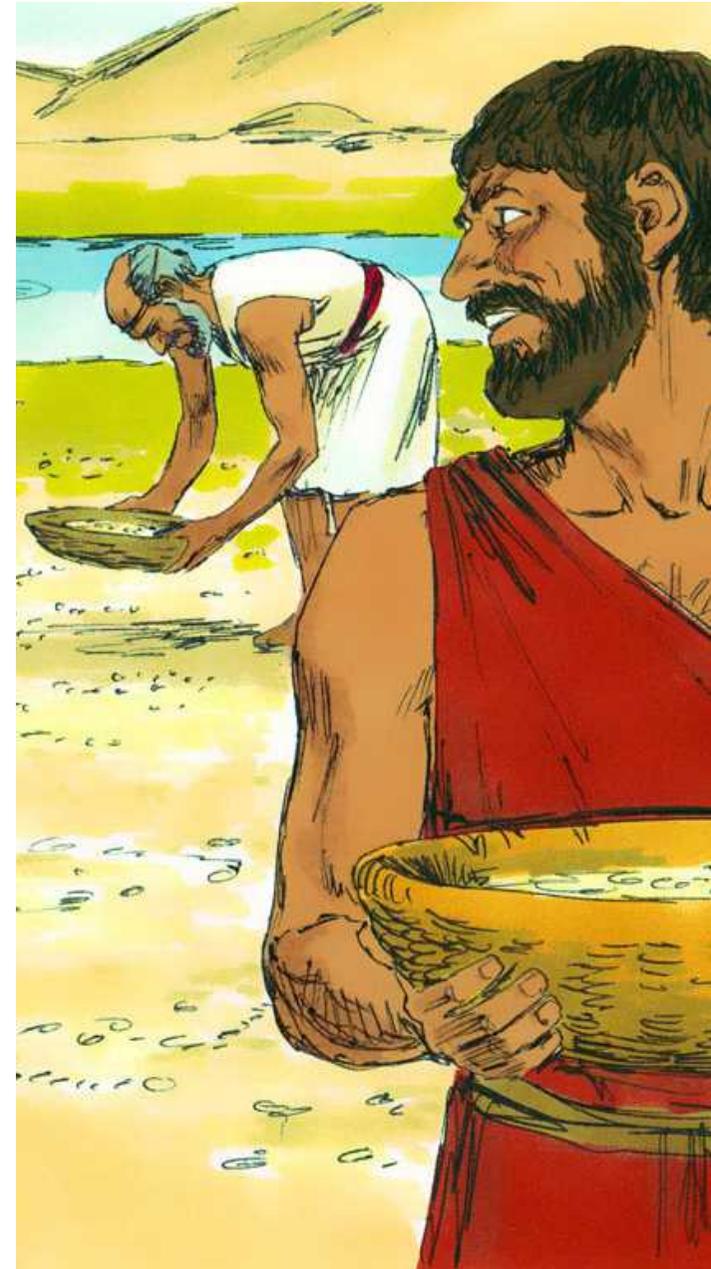
【保管されたマナ】 出 16:33～35

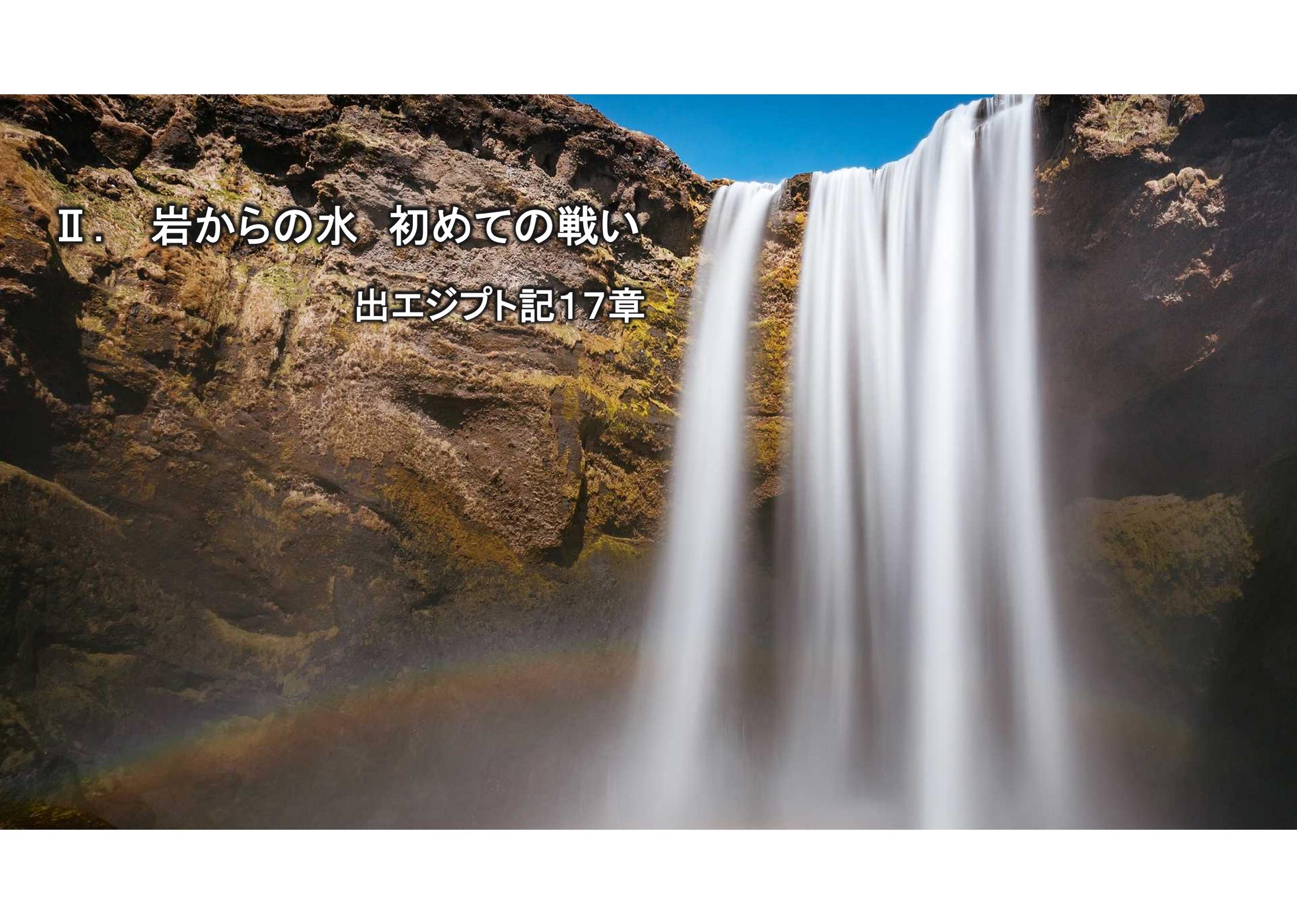
モーセはアロンに言った。「つぼを一つ持って来て、マナを一オメルたっぷりその中に入れ、それを【主】の前に置いて、あなたがたの子孫のために保存しなさい。」【主】がモーセに命じられたとおりである。そこでアロンはそれを保存するために、あかしの箱の前に置いた。

イスラエル人は人の住んでいる地に来るまで、四十年間、マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまで、マナを食べた。

* 後に、契約の箱に入れて、保存された。

■ 天からのマナが、40年間、イスラエルを養った。



A photograph of a waterfall cascading over dark, mossy rocks. The water is white and frothy as it falls. The background is a clear blue sky. The text is overlaid on the left side of the image.

Ⅱ. 岩からの水 初めての戦い

出エジプト記17章

【モーセと争う民】 出17:1

イスラエル人の全会衆は、【主】の命により、シンの荒野から旅立ち、旅を重ねて、レフィディムで宿営した。そこには民の飲む水がなかった。それで、民はモーセと争い、「私たちに飲む水を下さい」と言った。モーセは彼らに、「あなたがたはなぜ私と争うのですか。なぜ【主】を試みるのですか」と言った。

- つぶやきから、争いへヒートアップ!!
- またしても主を試みるイスラエルの民。

荒野の中の、懲りない面々...



【追い詰められるモーセ】 出17:3~4

民はその所で水に渴いた。それで民はモーセにつぶやいて言った。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのですか。私や、子どもたちや、家畜を、渴きで死なせるためですか。」

そこでモーセは【主】に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。もう少しで私を石で打ち殺そうとしています。」

■ 葦の海から始まって、毎日降るマナ。

神の恵みの奇跡のただ中にも関わらず...

神の恵みに生かされているのがわからない!! 人の罪の本質!!



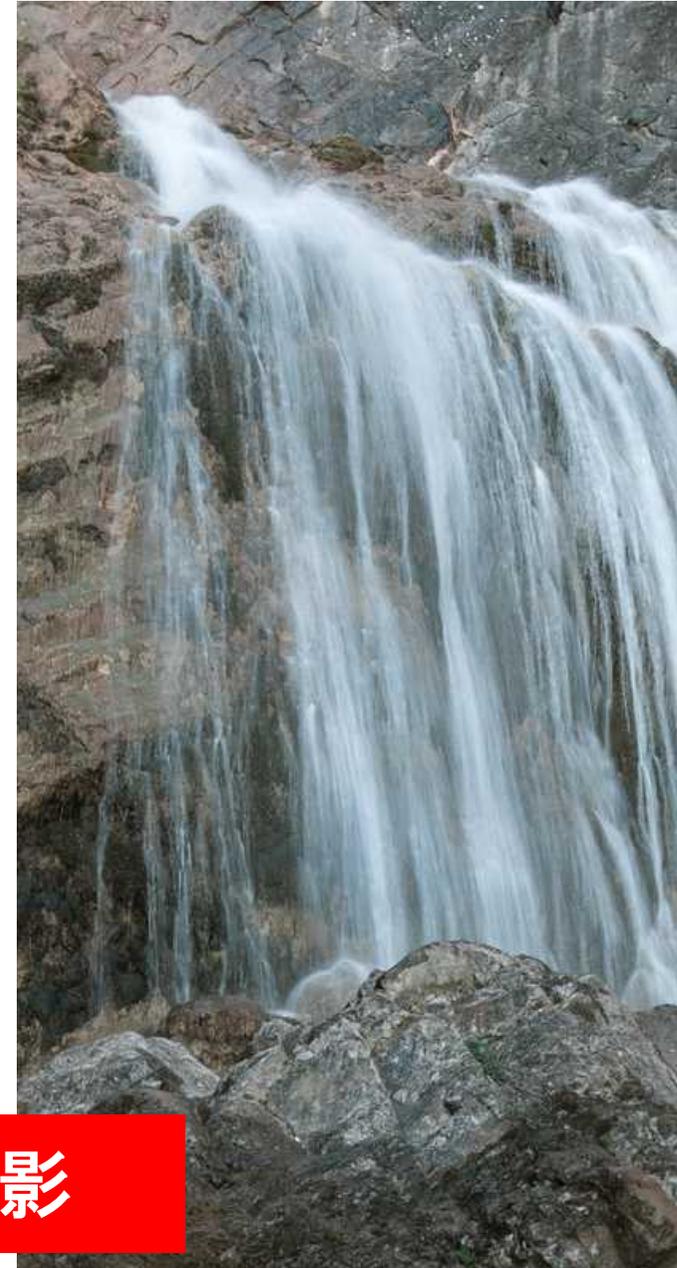
【岩から吹き出す水】 出17:5~7

【主】はモーセに仰せられた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを幾人か連れ、あなたがナイルを打ったあの杖を手にとって出て行け。

17:6 さあ、わたしはあそこのホレブの岩の上で、あなたの前に立とう。あなたがその岩を打つと、岩から水が出る。民はそれを飲もう。」そこでモーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりにした。

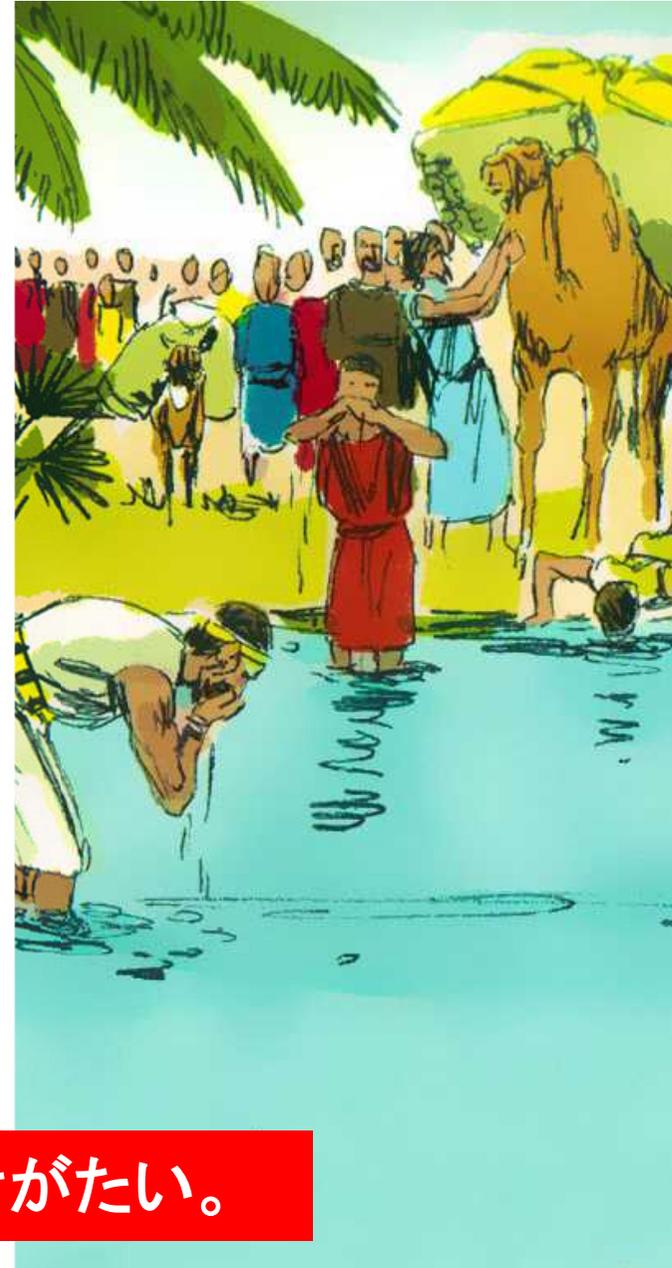
■ 岩盤を突き破って、地下水脈が吹き出した!!
大洪水でも地の下の水が!! ここでは恵み!!

命の水を湧き出す岩は、メシアを示す型・影



【争いの地】 17:7

それで、彼はその所をマサ、またはメリバ*と名づけた。それは、イスラエル人が争ったからであり、また彼らが、「【主】は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、【主】を試みたからである。



* メリバ ...「争い」が地名となった。民の苦い記憶に。

■ 「神がいるならどうして?」「神などいるだろうか?」

➡ 主を試みるのが、罪人のさが。

■ 明確にご自身を表された主を、なおも拒むなら?

➡ じわじわと蓄積されていく、イスラエルの罪。

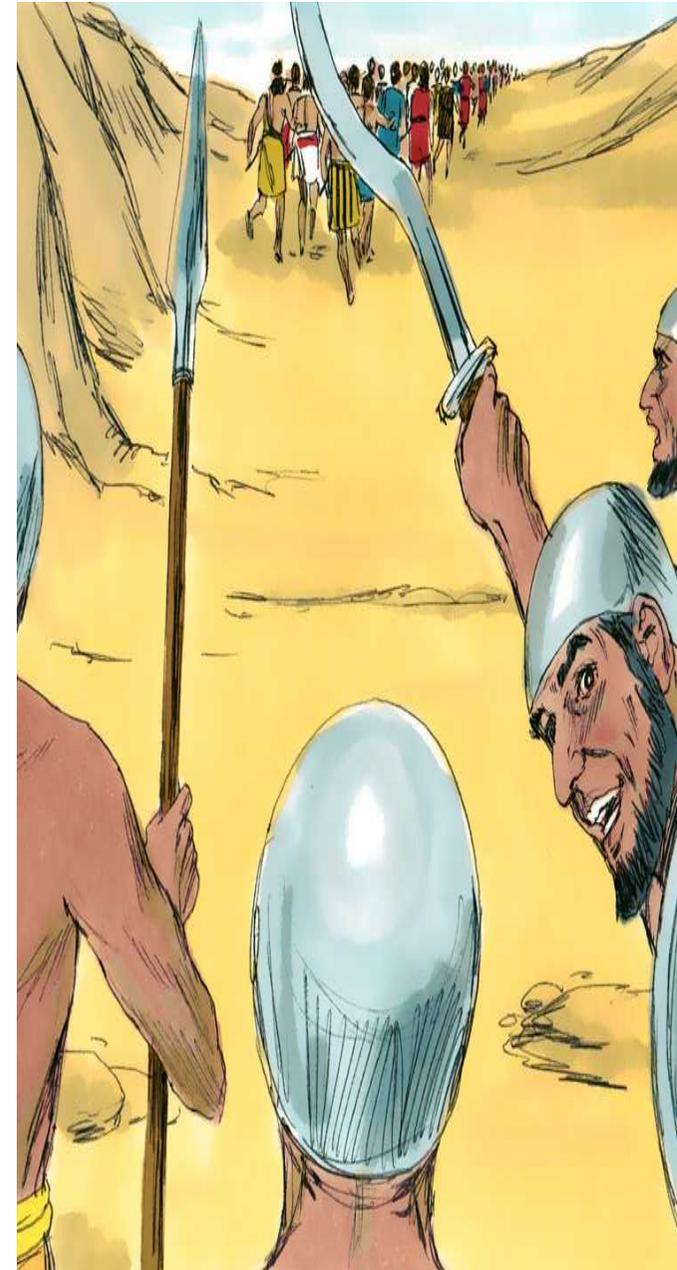
信仰者の救いは永遠。しかし、地上の刈り取りは避けがたい。

【アマレクの襲撃】 出17:8～10

さて、アマレク*が来て、レフィディムでイスラエルと戦った。モーセはヨシュア*に言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手にとって、丘の頂に立ちます。」ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。

*アマレク ...エサウの孫の子孫。略奪を生業に。「申25:18 彼は、神を恐れることなく、道であなたを襲い、あなたが疲れて弱っているときに、あなたのうしろの落後者をみな、切り倒したのである。」

*ヨシュア ...初出。後のモーセの後継者。



【】 出17:11～12

モーセが手を上げているとき*は、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。

しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフル*は、ひとはこちら側、ひとはあちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。

* モーセの祈りの姿勢を示すもの。

* 正体不明 ...ミリアムの夫?!(byヨセフス・歴史家)



神は、モーセと民に
祈りの大切さを教えた!

【主の戦いの記憶】 出17:13～16

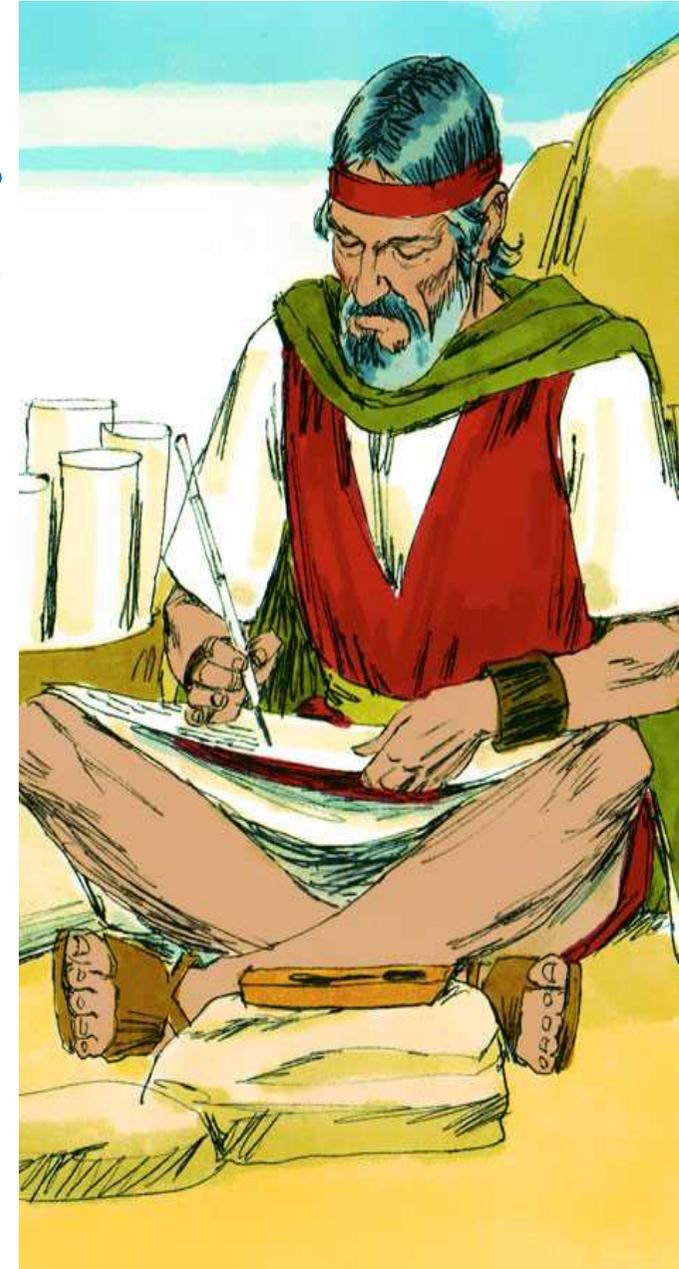
ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った。

【主】はモーセに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」

モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、「それは『主の御座の上の手』のことで、【主】は代々にわたってアマレクと戦われる*」と言った。

* アマレクの最後の記述は、ダビデの時代。

■ モーセは、主に命じられて、
イスラエルの荒野の旅の記録を後代に残した。



Ⅲ. 舅エテロのアドバイス

出エジプト記18章



【イテロの訪問】 出18:1～6

- イスラエルのエジプト脱出を聞いた舅イテロが、モーセの妻チツポラと息子二人を連れて訪問。
- イテロは、アブラハムの3番目の妻ケトラから生まれたミデヤンの子孫。主を恐れる者であり、ミデヤン人の祭司だった。
- モーセの二人の息子の名は、「ゲルショム(寄留者)」「エリエゼル(神は助け手)」
- 荒野の放浪者だったモーセは、神の助けにより、主の栄光を証しする者とされた!!



【イテロの賛美】 出18:7～12

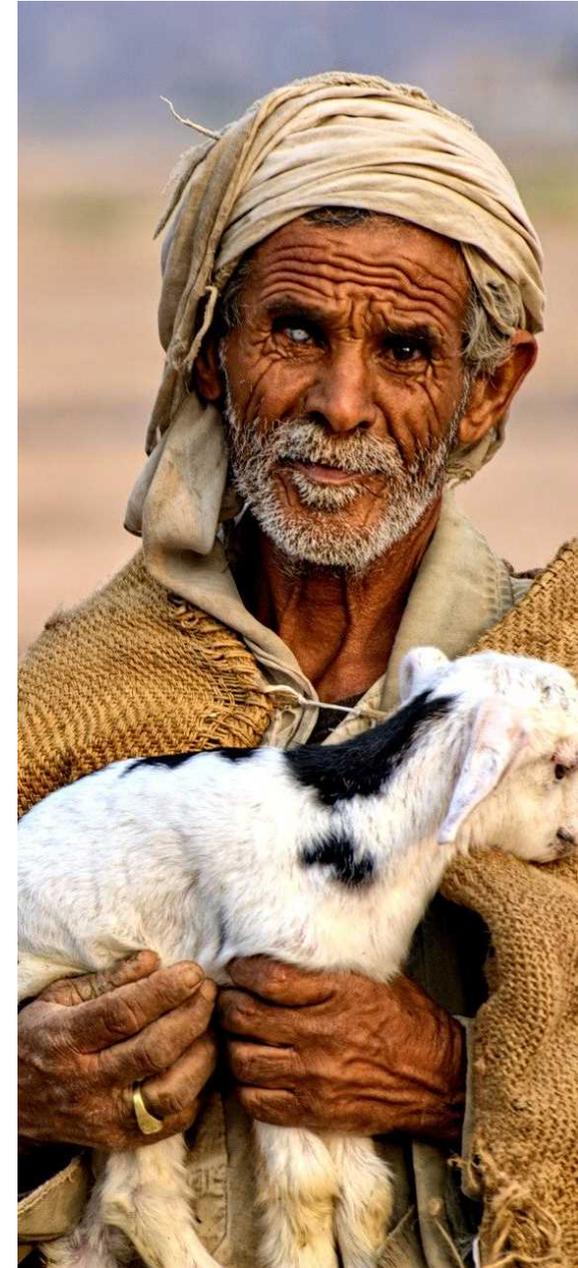
■ イテロは、イスラエルになされた主の業を喜び讃えた。

イテロもまた、イスラエルの主を知った。

18:10「【主】はほむべきかな。主はあなたがたをエジプトの手と、パロの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。今こそ私は【主】があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。実に彼らがこの民に対して不遜であったということにおいても。」

■ イテロは、モーセと共に、主に犠牲を捧げ、
モーセたちと、食事を共にした。

➡ イスラエルがはじめて出会った、他民族の理解者。



【イテロの忠告】 出 18:13～20

■ モーセに裁きを求める民は、一日中、途切れない。それを見たイテロは、モーセに助言した。18:17「あなたのしていることは良くありません。あなたも、あなたといっしょにいるこの民も、きっと疲れ果ててしまいます。このことはあなたには重すぎますから、あなたはひとりでそれをするとはできません。」

- まず、モーセは、自ら裁くのではなく、民の訴えを神に委ね、神に解決法を示していただく。
- 掟と教えによって、イスラエルに指針を示す。



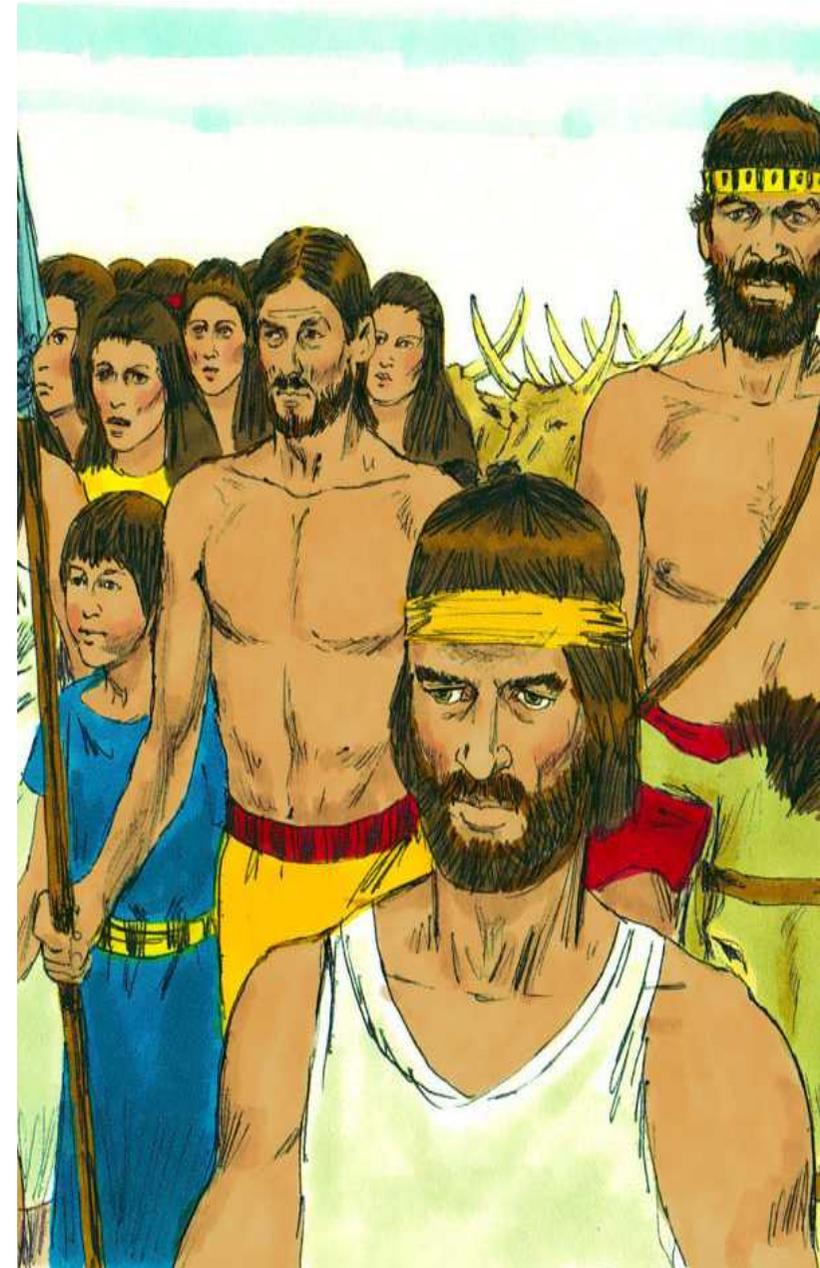
教えられたのは、
神の民の治世の原則

【イテロの提案内容】 出18:20～21

■ イテロは、モーセの負担を軽くすべく、
具体的な組織図を示した。

「あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、
力のある人々、不正の利を憎む誠実な人々を見
つけ出し、千人の長、百人の長、五十人の長、
十人の長として、民の上に立てなければなりま
せん。いつもは彼らが民をさばくのです。

大きい事件はすべてあなたのところに持って
来、小さい事件はみな、彼らがさばかなければ
なりません。あなたの重荷を軽くしなさい。彼ら
はあなたとともに重荷をになうのです。」



【イテロの忠告・モーセの謙遜】 出18:23

「もしあなたがこのことを行えば、一神があなたに命じられるのですが—あなたはもちこたえることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができます。」

■ イテロの忠告は、神から出ていると確信したモーセは、謙遜に、その忠告に従った。

■ 後に、イテロの子孫も、主を信じ、
イスラエルの一員となった。

・ケニ人(士師記1:16)」

・レカブ人(歴代誌 I 2:55,エレミヤ35:1～19)



あなたを祝福する者を
わたしは祝福し、
あなたをのろう者を
わたしはのろう。
創世記12:3



IV. まとめと適用

命のパンを日毎に食べよう
危機の時代を乗り切るために

【シナイ山への道のりの意味を確認しよう!!】

- 民の不平は尽きることがなく、根源的な罪の問題をあらわにした。
➡この旅で起こったことが、後も再三繰り返されていくことに!!
- 甘くなった水、ウズラの大群、マナ、岩から吹き出した水。
➡神の一方的な恵みによって、イスラエルは生かされた。
- モーセは、人間の力で、神の共同体を導くことが不可能だと悟った。
➡自分自身のリーダーシップの限界を知らされた。
- イテロいわく、民を導くには「戒めと教えが必要」だが、何がふさわしい？

そして、次回、シナイ山で、主の「律法」が与えられる!!

【天のパン、マナに教えられる、靈的糧の原則!!】

■ マナが示すのは、主イエスの生きた教え・命のパン。

「モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。

ヨハ6:32 」

■ マナは、その日の分を与えられた。(安息のために、6日目だけ二日分)

➡ 靈的糧である御言葉も、毎日、その日の分を味わうこと!!

聖書から黙想し、御声を聞きとり、日々に適用する大切さ。

■ マナは、翌日には腐ってしまった。

➡ 靈的糧は、食いだめできない!!

日々のデボーションの大切さ。

日々、御言葉を
しっかり味わい、身につけて、
週に一度の礼拝に臨もう!!

【メリバで、水が噴き出した岩は、メシアの型】

■ 聖書で、「岩」が象徴的に用いられる時、例外なく、メシアを示す!!

「創49:24 しかし、彼の弓はたるむことなく、彼の腕はすばやい。これはヤコブの全能者の手により、それはイスラエルの岩なる牧者*による。」

➡ * イスラエルのメシア。(ヤコブのヨセフ族への預言から)

■ 主イエスご自身が、この出来事の意味を示された。

「マタ16:18 わたしはこの岩の上に*わたしの教会を建てます。ハデスの門も それには打ち勝てません。」 ➡ * イエスをメシアと信じる信仰の上に

■ 使徒たちも、この出来事を、メシアの影だと証した。

「I コリ10:4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。」

【私たちの命のパン、救いの岩である主イエスを信じ、信頼しよう!!】

■ 主を知った者は、己の罪を思い知り、神の救いを求めるよう導かれる。

➔ イスラエルの民の真実のゴールは、メシア、主イエスと出会うこと。

■ 主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目に復活された。この主こそ、私たちの救いの岩。命のパン。

■ 混沌とした時代にあって、主の岩の上に堅く立とう。

福音の灯火を掲げ、人々に命のパンを、御言葉を分け与えていこう。

■ 主に従い、歩むなら、日々の必要は満たされて、道は必ず拓かれる。

どんなときも変わらない、信仰者の歩みの原則に、従い続けよう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

イスラエルにあたえられたマナと、岩(いわ)からわきでた水のように、わたしたちには、真実(しんじ)のパンと水である、イエスさまの命(いのち)があたえられています。

とほうもない、このあわれみに 満(み)ちためぐみを、この瞬間、瞬間(しゅんかん、しゅんかん)に、しっかりと味(あじ)わわせてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」